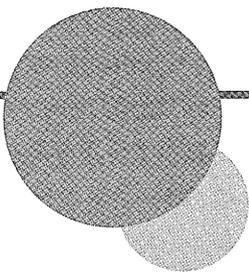


学および学部内で正当に評価され、この事実が今後
に活かされればと思います。また、農学部において
このような活動が行えたのは、災害以前から中山間
地域の農村と交流を行っていたという実績があるか
らではないでしょうか。このような活動の企画やお
世話をしてくださった先生方に感謝致します。

以下に、中越地震を通して感じたことを簡単に付
け加えさせていただきます。7・13水害を超える大きな
被害が出た中越地震では、多くの方がボランティア
活動に参加しました。私の参加した救援物資の積み
替え作業現場にもたくさんの方がいましたし、その

中には農学部の学生もいました。このような大きな
災害を実際に経験したことで、今、多くの人の間に
「助け合いの精神」など共通の認識が生まれている
のではないのでしょうか。このような気持ちや経験が広
く長く保たれて、今後に活かせられれば良いと思
います。私の参加したボランティアは赤十字社が中心
となっており、活動するボランティアは無料で保険
へ加入しました。経験した災害を教訓として、万が
一に備えた様々な制度を作っておくことも重要な
のだと感じます。



ボランティアに参加すること

自然科学研究科修士1年 竹内一成

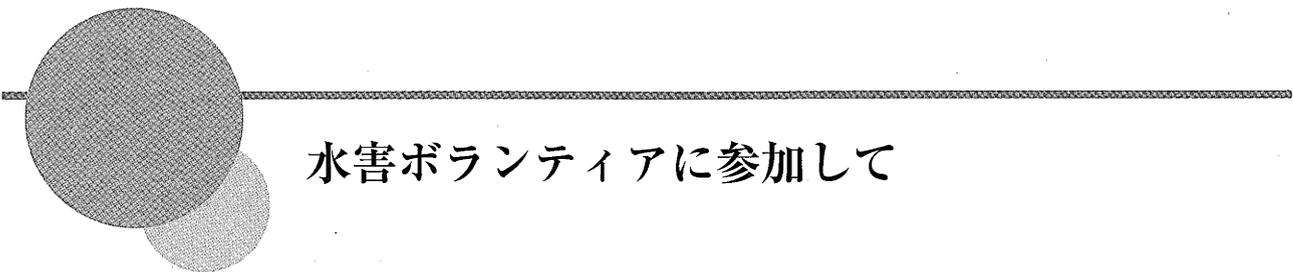
今回、水害ボランティアに参加して感じたこと、
考えさせられたことが多くあった。中でも一番考
えたのは、大学生のボランティアの人数が少ないこ
とである。参加しなかった学生の理由は多々あると
思うが、その中の1つに講義および試験の存在が挙
げられるであろう。水害が起こったのが7月中旬、
ボランティアの必要な時期が見事に集中講義やテス
ト期間にぶつかって単位のことを考えると、どうし
ても参加できない人が多かったのではないだろう
か。私自身も何回かボランティアに参加するつもり
であったが、実際にはたった1回参加したのみで
あった。この理由としても集中講義に出なければ
ならなかったことが大きかった。被害に遭われた方々
には申し訳ないが、どんなにボランティアに参加し
ようとしても卒業のことを考えると、どうしても自
らのことを優先せざるを得ないというのが事実で
ある。では、どのようにこの問題を解決できるか考
えてみた。そこで、まず言えるのはボランティア参
加者には何らかの優遇措置をとるべきであると思
う。

特に学生という立場から言えば、ボランティアに参
加して欠席した講義を出席扱いにする。もしくは、
参加者には単位を与えるなどの制度があればもっと
参加しやすくなることは必至である。しかし、これ
はボランティアの精神に反するとか、見返りを求め
て参加するのは良いことではないとか、多くの反対
意見が出るであろう。そのような意見ももっともだ
が、ここで考えなければいけないことは、どうい
う理由で参加するのかという事ではなく、いかに参
加しやすい状況を作っていくかという事である。仮
に自分が被災者であって労働力の不足に悩んでいる
としたら、完全に善意だけのボランティアでも、何
かしらの見返りを求めて参加した人であっても、労
働力を提供してもらえるということに関して何ら変
わりは無く、むしろ善意のみの少数のボランティア
よりは非常に助かるであろう。また、参加者側から
みても、どのような理由で参加しても何か得られ
るものがあり、その結果、次に何か起こった際
には、一度経験したことを生かして行動できるの
ではないか

と思う。そのような意味で、どんな状況の人にも参加しやすいシステムを作ることが、非常に重要であるということを考えさせられた。

今回のような災害時のボランティアでは、様々な面から考えても社会人や高校生以下の学生よりも大学生の方が広範囲に活動できることは確実である

し、積極的に参加できる状況があれば、どれだけ被災地域の方々が助かるかという事を考慮すると、是非大学側にもより多くの学生がボランティアに参加できる状況を作るための対策をとって欲しいと思っている。



水害ボランティアに参加して

農業生産科学科3年 滝澤泰暁

真夏の炎天下でのU字溝のどぶさらいがボランティアの仕事であった。はっきりいってとても地味で単調な仕事である。はじめて1時間もしないうちに流れる汗と反比例してやる気と体力が無くなっていった。「早く終わってくれ」、何度この言葉が頭の中にこだましたことか。そして、ひたすらきつい肉体労働は人から感情を奪うもののような気がした。作業はひたすらきつかった。

ただ、まったくの無駄であったのかと思うとそうとも思えない。仕事の合間に飲んだお茶は格別とうまかったし、仕事が終わった後には確かな達成感があった。アパートに帰って入った風呂もその日の睡眠もいつになく心地よかった。また、「小国」という普段自分では進んでいかないような場所に行き、きれいな景色を堪能し、プチ旅行気分を味わえたのもとてもよかった。正直この活動に参加して得たものは「疲労と休息の喜びそして自己満足」であったと思う。

そして、あくまでも傍観者になっていたが、座談会ではほかの人の意見が聞けたこともよかった。「ボランティアの押し売り」、「ボランティアに対する報酬」、「それぞれが参加した理由」、賛同できるものそうでないもの問わず本当に様々な意見が出ていて、人それぞれ得たものの違いや意見の違いを聞

けておもしろかった。

今思っても、なんでボランティアに参加したのか明確な理由はない。しいて言うなら「ただなんとなく時間があったから」「現場の状況を見てみたいから」などせいぜいこんな理由だったと思う。断じて世間で言う「ボランティア精神」なんてものは無かったし、座談会での「ボランティアとは何か」という問いかけにも正直答えに詰まって、自分の意見というよりは一般論のようなことを話してしまった気がする。

こんなことを言うと積極的にボランティア活動に取り組んでいる人に対して失礼に思われるかもしれないが、自分はボランティア活動の意義には参加した後でもやっぱり興味はない。自分が責任感のない人間であることがおおきいが、ただ自分が楽しそうだと思って参加して、単純に楽しい思い出になっただけで十分だと思っているし、あくまで自己満足で終わってもいいと思う。当然ボランティア活動を計画する中心となる人は自己満足では終わらせてはいけないと思うが、その活動に参加する人は、無理に活動理念のようなものにとらわれずあくまで個人的な理由で参加してもいいと思う。そして、むしろその方が参加する側にとっても気軽に参加しやすいような気がする。